

「天気」アンケートの結果について

編集委員会

1. 資料

8月31日までの回答者72人の内訳は次のとおりである。

(1) 職種は技術者(28), 研究者(20), 教員(13), 大学院生(4), その他(4)

(2) 専門別は気象(51), 海洋(6), 学生(5), 電気(3), 大気汚染(2), その他各(1)

(3) 年齢別は20歳代(15), 30歳代(11), 40歳代(17), 50歳以上(17), 記入なし(12)

2. 現在の内容についての意見

(1) 量について

全体としては適当とするものが多いが, 論文については少ないとする意見が目立つ。

(2) 難易度について

全体としては適当とするものが多いが, 解説, シンポジウムについては40歳代が僅かではあるが難しすぎると答えているのに対し, 20歳代は論文が難しすぎるとしている。

(3) 読む割合について

最もよく読まれているのは解説, 学会だより, 質疑応答, 用語解説である。当然のことながら論文は時々読む人が非常に多い。

(1)~(3)項の年代別の分布は第1 a-c表である。

3. 読みたい内容

職種別, 年齢別に分類したものは第2表である。環境問題, 気候変動については大部分の人が興味をもっている。

第1 a表 量についての分布

種類	内容 年代	多すぎる						適当						少なすぎる					
		20代	30	40	50	なし	計	20代	30	40	50	なし	計	20代	30	40	50	なし	計
解説		0	1	0	1	1	3	9	9	16	12	7	53	5	1	1	2	4	13
シンポジウム		0	1	0	1	1	3	10	7	13	10	6	46	3	3	2	2	4	14
論文		0	0	2	0	0	2	11	5	11	7	7	41	3	6	4	8	5	26
用語解説		0	1	0	1	0	2	9	10	15	10	5	49	6	0	0	4	5	15
質疑応答		0	0	0	0	1	1	10	10	12	11	4	47	4	0	2	3	5	14
学会だより		2	0	3	2	0	7	11	10	14	13	9	57	1	1	0	0	3	5

第1 b表 難易度についての分布

種類	内容 年代	難しすぎる						適当						易しすぎる					
		20	30	40	50	なし	計	20	30	40	50	なし	計	20	30	40	50	なし	計
解説		0	0	3	0	1	4	14	11	13	15	11	64	0	0	0	0	0	0
シンポジウム		1	0	2	1	1	5	12	11	12	13	10	58	0	0	0	0	0	0
論文		3	0	0	0	1	4	12	10	15	14	9	60	0	0	1	1	0	2
用語解説		0	0	0	0	0	0	14	9	14	11	9	57	1	0	0	2	0	3
質疑応答		0	0	0	0	0	0	11	9	14	14	9	57	2	0	0	0	0	2
学会だより		0	0	0	0	0	0	10	9	13	10	8	50	0	0	0	2	1	3

第1c表 読む度合についての分布

種 類	内 容	よく読む						時々読む						あまり読まない					
		年 代						年 代						年 代					
		20	30	40	50	なし	計	20	30	40	50	なし	計	20	30	40	50	なし	計
	解 説	4	4	10	11	8	37	9	7	7	6	3	32	1	0	0	0	0	1
	シンポジウム	3	4	6	5	5	23	8	6	10	9	5	38	2	0	0	2	0	2
	論 文	2	1	6	6	5	20	10	9	8	11	6	44	3	1	3	0	0	7
	用語解説	8	3	7	9	5	32	7	5	3	7	3	25	0	3	2	1	2	8
	質疑応答	10	3	12	4	6	35	3	2	3	11	3	22	0	6	2	1	1	10
	学会だより	6	6	10	11	6	39	5	2	3	5	4	19	2	2	4	1	1	10

第2表 読みたい内容についての分布

内 容	種 類	職 種 別		年 代 別					計
		研究者 (含教員)	技 術 者	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	年齢記入なし	
力 学		11	8	4	5	5	2	3	19
雲物理		11	11	8	3	6	4	1	22
放 射		11	4	3	4	3	5	0	15
総観気象		8	19	4	2	9	5	7	27
メソ気象		7	21	1	2	11	6	7	28
境界層		10	10	3	3	7	5	3	20
測 器		10	9	2	4	5	5	3	19
乱 流		11	10	3	5	5	6	2	21
環境問題		16	13	6	6	8	7	3	29
気候変動		12	16	5	4	7	7	5	28

(注)他に航空気象(2), 教育問題, 統計, 予報技術, 化学, 水文, 気候制御, スペクトル解析各1あり

るが, 総観気象, メソ気象のように現象と関連の深いものは年齢の多い層に興味をもっている人が多い。20歳代

が技術者も含めて雲物理に興味をもっていることが目立っている。

(以下 544 ページの続き)

28) Stout, G.E. and E.A. Mueller 1968: Survey of relationship between rainfall rate and radar reflectivity in measurement of precepitation. J. Appl. Met., **7**, 3, 465-474.
 VII. Doppler Radar, Wind Measurement
 29) Lhermitte, R.M. 1966: Application of pulse doppler radar technique to meteorology. Bull. Amer. Met., **7**, 703-711.
 30) Lhermitte, R.M. 1964: Doppler radars as servere storm sensors. Bull. A. Met. Soc., **45**, 9, 587-596.
 31) Lhermitte, R.M. 1968: Turbulent air motion as observed by doppler radar. Proc. 13-th W.R.C., 498-503.

32) Browning, K.A. and R. Wexler 1968: A determination of kinematic properties of a wind field using doppler radar. J. Appl. Met., **7**, 105-113.
 33) Atlas, D. and R. wexler 1965: Wind measurement by conventional radar with a dual beam pattern. J. Appl. Met., **4**, 598-606.
 VIII. Optical Radar-Lidar
 34) Collis, R.T.H. 1966: Lidar: a new atmospheric probe. Q. J.R.M. Soc., **92**, 220-230.
 35) Ficco, G. and G. Grams 1964: Observations of the aerosol layer at 20km by optical radar. J. Atmos. Sci., **21**, 323-324
 36) Rogers, R.R. 1967: Doppler radar investigation of Hawaiian rain. Tellus, **19**, 432-455.